國辭解便蒙 上巻

ホ 2
4298
1

か二五

國辭解便蒙

上卷

汝命（ミことハ）者高天原を志らせ汝命者夜のをす国を志らせとこと
よさしゐたまひし大御よさしのまに〳〵ずゐのそらしなから
え新と志ろしらすでにあらずぞな新八なみのきをみてもろふ、
うちあくづちれをへてこゑしきくまのあさことのこゑいやつぎ〳〵にこみ
志ろし先にとこゑかしこどもくや志なきぞそみなくなりのまれ
志つかさまて大御神をまめくなしつぎきそうきそて志ゐそひ
ゆくこゝハいたくしくもくしき大御神みいたくなりにけるとかみをまひ
あまたやハらしくもえ新どうくなることのこゑみちつしひとつきて
大御ひろきのことふきつ志そしもくなやハらかむなのれ光枝志つか
志つくのゐ志ふきをれてぞ山への志ひのをれ志くふくをれつくらやま

横山有策氏
昭和四年五月
寄贈
全二冊

ホ2
4298
1-2

門 ホ 2
4298
1

くにぐにハみなもとしなをのら、おほよそ天地のうちにあるものゝしかれハこの大ミくにをみなもとゝしてうまれハ、うしろきくにぐにもうしとおもひそ、およそなさうひともおほくあつくしてかみのことわりをうちかへさんと、ことわりしてむとおもふをのうちきかんのくにぬくまのことおほきをと、いふもせむ。いでやこのこゝろよみなるこゝろのいやまさりうつろひゆくよにも神のこゝろをつきくにつくへからとこまかなるをふかくしきのこゝろよんくにのしるしをつたえぬるものあらし。されハこれのはへしこゝろまさりまさしらむ人ハいてもなかくてやハあらむ。よハさかり時ハへさかりぬるも、なかいにしへのめでしこゝろをもおもふにあしらひおそ、いかなんとしらく日とこしへにこゝろのいにしへのおほみよなるにふをいふてゝおほよそさしむ

ひとつ。大御国ながらにかゝるもよのこともおほてまかせむハ、さかさかさかしなるむ人ハからくにハまにまにのやしなはてにてゝむかくしハところうちの。おほよそ人のこゝろハうつろふよりうつろひゆかさきかへらハそてからみのまにくにのやしなはてもくむきさまてハかへてなかきよみことそてなほきよのことごとくおやまつりぬ。されハからくにのなほきこゝろもよみ、こゝろの言辞どもうけまへむとある人そのうちみちみちてしハさしむをようせざハかへりて大御国風のこゝろをおもしるむ

ひとつ。なほきこゝろなほきおほみよのこゝろさかえをうらみとしてすめ大御国なからにこつろひゆく言秋のゆきかひハしるくあむあるかおほなるきよの人らこゝろをつくしふときてそのへてくらき心あるおほきハやうこときいよのよにハしゝてさとこまなきていにしへさらしなる

ことにやむごとなかるめでたき御えらびの集までさへあり、大御國ぶりに
心をよせむ人は、めでさきらふる歌ぶりによりそひて、おほにとらへつとせむ。
さるは歌ごとも、よみごとも、よまむ人は、まづこれ大御國の言のことわりを
よくわきまへてこそは、いにしへにかなふことの花をもとめて、心にかなへりといひて
やまとことばにあるべし。さるはこれのことばは、ことのこゝろをつぶさにいふとき
なるものなり。いまもみえ給ふは、かくまさしきもののゆゑ、かのさかしらなる
心のおほくをつぶさにおもひえられることぞありけるに、てらしてひしき
ひとのさまとせむ。さるはひとへに心のかよへるまゝに、くさぐさのことばをなしたるこそは
かやすらかにきこえのそ後よむ人すなほにもうるはしきことばしておもむ
ひやつ。こゝのこゝろをえむとおもふは、まづこれのことばこそとく人の國
の文字てふものゝかゝはらぬさまをしらまほし。これも世にしるしつむ

言語は神語

そのかみことばてふものは、やゝくだりてしるしてふものは後世のもの
なり。そのかみへかへりては、ひとの國の文字をかへりみるは、文字てふ
ものゝこゝろをもてよみことわりは、かくてことのこゝろふるまひ
あらむ。文字はかの辭のまゝなれば、かれはこのみくにのそのことばをもて
ものゝ國のことばなむことわりうまくかなへるむとかゝにまじなしま
をへかへりのみさかりし。さるはかくはじめて天地のはじめつち
とよむとやいふは、くしびなりけし。この國の神代ひふさとひつゝとふことこそ
かぞ世の國みな天地をさはじめつの字々ことどもかはりひとは神代つらと
いふことそれまじなしからでもちゐるこのあらそのさまことをてふものは
神のこゝにみえおほくつたへてくしく文字てふものは、みちの
よのそれにていやしきをや

孤立語と
謬着語？

ひとつ。ことはゝ物のことをとらへむとならは、まつそのこゝろふさの
おもむきをよくしるへし。これはことのおもむきをのふるは、そのこゝろ
なふそのは係なそれそのなのみおはなり（ことはその一言にてなるもの、なゆくはいきあり）そのことをいふ
そのは係ならはそのなみなとなり（詞をとりて一つはそのこゝろあらて詞となりぬ）されはこゝろをいふその
はなのおとなりし。されは人の事にてはそのこゝろはなしといひてことはの
事にてはことをとつゝき系そてこゝろをはなれしぬ。ことはゝその
ことそといふ詞ならぬもの本をとつゝく心は言なり（こはそのならしと係る名の一言也）をへ
しれたるかた言なり。かれはそとさむることなり。くしてつ系をて
まさしくことはのたしみてそは、あまたなり。ことにそのうへをいふむになる
は体といふ辞なり。そのはひとことは此こゝにそのをとつ本言ことにて係るはち
このことをみなるしまり。次のことは一言はをへさしむることにて係るむ

ことなり。次のしみ一言はかゝりてさむることにてそへの二言は意味をさ
先をいへる言なり。くしつは係りて作といふひとつの辞なれは
おなしきむすひにならは、えひしきといふことなり。そのこゝは此辞のをとつ意の
言なり。ひはをへしきまふることなり。志はかゝりさしむる言にてかし
ふ志とれなし。きはうへのを言のへをさし係そむる言なりくしつ
つし係ちてこひしきといふひとつの詞なりけり。されはそへさしむる言はうち
（こゝら作のきみしるひなり こひしのひとはことなり）そへよきまふる言はうこくなり（こはうらふとふともひ なりけれのにはことなり）
のかたにまくことをおらへこゝにてふそのなり。そはさを鹿のさみ一言さへ
でのさみひとことみをひなり。こはそのそしろ夜ふかけてといそむひとことと
あしへのまふくまつさとふ一言とかけふをのなり。（くてまさの一言まなり）まくこの
おかふくつしひかむし。さうひきむしてこそなりそはいまの

みの意

まの意

にの一言　まことのまにひとことをさへむひあるなりけるの一言ハうつくしひとつ

むかしよる一言なり。ことゝひのむかしにハ　こ新のと。　みつのみなれものかへるひとつ

そのみひと言ハ實のこゝろかなるをいふ一言なるをめてゝしてうつくしひとつ

むかしことゝひもむかし言とハあらぬの意則一云　まのひと云ハ實をさしていふなれ

ひとことハよう見えをしてうつくしひとつ言とあらぬの意則一云　ことのしまゐ摺

おほせてそれらの辭をおもおしてよ（すへて何も詞のことなりハとてひとつのうちふ皆言と助辭とをうち付くとあるへし）

かみなくもかしこき神の大御ことゝもてそのうるへをいふもの

伊邪那岐命先言阿那迩夜志愛袁登賣袁後伊

邪那美命言阿那迩夜志愛袁登古袁

阿那迩夜志

あなにといふ言ハ實のいつくしくよろこふにいつる言にてその　あハこゝろよりをの

にやし見まて云ふ時ーのくまあそめてまつハそろう云なるへし。くてこの言に

あやにめとしきなり。おといふ云ハ實にさしておもひかへしにるこゝろを言ひてその

あといふ云のこゝろをこゝろえてうちあけきとおもふ云なり。くつしなりとて

わおといふ一言ちれなくつしなりて一云をとりけとのを（かれか連音の言といふにまた倣へ次の）にハうへのんとなさめ

おしてしもとなむなる云　やはちよそふ云のもとの見の意ふてうへのと云の

んとさしおとし云。そての意ハしりわさむる云にてうへの四言をうけて

志つ見えし見ゆる云なり。くてあなにやしてふる辭ハあはれなる

愛袁登賣袁

えハ吾ふ。ふ忠にとし見れハとふてんまう承ゐしと云ふをあやまれる云なり

をとめれ　をハをらちもやそへいひて　めハひとつふ郎なり。　見んハをとかを

まへてさしふ云なりてかの女の称なり。そてのをといふ云ハうへの言なり

ときらんてかをむすふといふにてあらしとおもはるゝにさしこしてのたまふか

むさましきこゝろなり

愛袁登古袁

なまふやしハ徐てかなひつ。えもえへはれなし。とやくの　ととみ二言を

えのとゝらんのはなれなし。こハそのことをたゝへてさしいふ言

あはいそむかおほし始くし

速須佐之男命宮可造之地求出雲国介到坐須賀地

而詔云吾来此地我御心須賀〻斯

吾来此地

なほこてふこれハ。われハみをさして言　ありてうつしみをさしていふとのなし。

是ハさへきむちといふにて此の言ハこゝろをさらあたなふといふこそくつしありて

なほてふひとつハこれハすなはちごやくとつしるみてハうまくつゞけるに　（おほよそにハこの〳〵ひとく）

（されとふその一言にハ成て此言をまき言とするなり）こゝふ言の　こハそのことにて言をさしたるなり

言ふなりて次の　こハえへのくみはたまれる残にさきんてふうたことしものも言

かくふ言ハえへを納めおしてかきこむるなる言　きてのさたかにきこゆるゝを

言　てふへのくるこもちさるめてさとをかくちなるなる

吾御心

なるみなハおもとの心にかなふし　これ一言ハこれをうく言にてその言にかなひ

さてそのかきこそあるてこゝろのかたちもなをとのかなひ（則獨者のひとつ）ことのしたにきゝむ

むしへ言ふてそれをかなへるてこゝろにうかふなり　をくたちてこゝろにさきにハ

宜さしとさきむつといふてそのこゝろさよくこの一言（則ここらへしほにハこの一言にかなし）次の

こハえへのことをひてそのうつくこゝろをはえてきまるまる　てたにさこむる

言にてはへをさしおきていふこゝろなりあはれ一言をとなへる（別連音の言）

須賀ニ斯（すがくし）

はゝのはゝをとつこゑ（本言）ハ直をさしはなれていふにてもとの語らみならにおもはすなり（とつはあまてらすおほみかみもとつはらなりとも　あきらかにおもはるゝ詞なるへし）次のはらみ二言はもとの言にていふとなくさゝなみ
もちへしかる孫まれしに辞あり　そもの一ハもとの意をはへていふめてたく
むる言くしつゝ猶も凡はらかくしてふる詞ハすなはちかくるかなし
此との人の大御代とあるてのこゝろもていふも

天皇幸行其伊須氣余理比賣命之許一宿御寢坐也後其伊須氣余理比賣命參入宮內之時天皇御哥曰阿斯波良（あしはら）能志祁去岐袁夜迹須賀多ニ美（のしけこきをやよすがたゝみ）伊夜佐夜斯岐氐和（いやさやしきてわ）賀布多理泥斯（がふたりねし）

阿斯波良能（あしはらの）

阿しハ葦原也　さらぬもハちはやふるこころなりいて此の
らハをへさしむる言（則連音）そもの此ハもとのこゝろ鋭をさしへて
次へつくる言なり

志祁去岐袁夜迹（しけこきをやよ）

志けてふ志ハをとつこゑにて志げ志のあはふ志にかなし　けハをへさして
むる言にてうへの鋭をさしおきたる言　こハ志けの二言をはへとさし
ときむる言　きハ手をさしきハむる言にて志けこきといへるとはきハ
此くるくつまて志けこきてふことへハすはらる　をやのをハ
そつうすはるところなる言　やハよくをるべきこふの名　そもの此ハうへの
ねど納るかしてをもとむる言

須賀多ニ美（すかたゝみ）

すかハすけよりひきつゝきし先の言（則まへにいへり　このハ言）草の名にてハすけ

とふされとかく物の名となりてつきへつゝく時ハかの言にひきこえ

ありて次へうつることに言のおのつからなるかなかくちくハ下に

いそむしろみハさまけにかすれる名にて之ハ上の二言なとをあへおく言

伊夜佐夜斯岐氏（いやさやしきて）

いやのいハ夜ともかし定て言よりありて　やハ知をさしよろふことの

もし先の言（則連音）のくつしありてハことなとさしめはしむる言とな

れる　さやみさハ事なときもむる言のもしめみ言　やハやのやにおなし

くつし約そてはしみさしめて云々えさしし辞なるへし　志きての志ハ

そをつことにてきらめ志つむるなよくなれるなるへし　きハそふくれなる

こそかてくへの意なとさしきて先し言なりくてそへらましかる言ハ　志き

志くなとやふかうつろひてへからしとはすあり　そそのてとふ言ハうへのみを

わらしむさんてわかむふる言

和賀布多理泥斯（わかふたりねし）

こもの言わかりはしみくつろふことくへよハひつかハ之へきらむる言　ぬくらみ

ぬハそそつことにて物のはしみとさうけをとひてひろぬるとはしみけるを。

ふハそへさしむる言にてうへのへなとをさしことつ言　てハはへむすふこと

かてくへの二言を誠きえさし先なるくつけて　ぬるとふ辞すはくる

祢しの祢ハそとうことにて　ぬるとふぬの言みはしみまはるこそあり

志ハくへのくをさうむる言にて　うへ志つむるなくいつる言なり

この大御うたとよりくへのよハさこまぬるそのとき時うつるこそこうつろひ

ゆけとみつよのはなれかなまふくしえてのちつゐひはあるらむなれ
ころものをていふらむ

泊瀬朝倉宮御宇天皇代

天皇御製歌

籠毛與美籠母乳布久思毛與美夫君思持此岳介（こもよみこもちふくしもよみふくしもちこのをかに）
菜採須兒家告閑名告紗根虚見津山跡国者押奈（なつむこいへのへなのらさねそらみつやまとのくにはおしな）
戸手吾許曽居師吉名倍手吾巳曽座我許曽者（へてわれこそをれしきなへてわれこそませわれこそは）
背歯告目家手毛名雄母（せうつめいへをもなをも）

うたハ神代のすかたよりいへるなれハいまのよみうたとことなり　そのしるしをひ
あつこハいろていふ　一ハ首あとそろへみてつくりしふやれなそたつ首目のこと
たうなるへし（なるハことよめるもところきかハならし）　そよの　ことハしれる言なりとハそゑも

先もなしかるをの一云ふたなしてさへのなを見しとさむるにてあらなれ
る言なりくしつゝあれくる云もましくおのくをみそうなんれくあら
そてのよハうれやとさむるにふてさへのなをさなんてあらはよそらふ云く
おなまそうしなよの言をやふらすふそのくみといへるとちよふとのことふたいやと
よとのんうく侍りしうみよハやのつゝみたてふなつて今ののなをおしとさむ
るあらなへし（やハそしよみらふ云ふてよさよえのをさむる言）くしつゝあれくる言なきおのく　その
そうなところのんなつくる

美籠母乳（ミこもち）
こハうつくしひらむへ云なりこもまさまふらよふとのことへさとちよふ
ところふてハこうゆをや侍らむ　こゝふまハ今とさしてしハれんなよてすなる
云ふてそしめなり　えハ今のそなへり[illegible]をといへる云まて　いらむなく

そなたらなみよりやうて光を下てさつくらふことなにハをもあしなるへく
こもよといふのよハ美称といふ　そちのそハを御削ことにて　ちひ
さきちひろく言ひなりてその一言ゆへとなれけるさまなること
なりくなれけとれまさる也ハそこきて　それそつみとなるにこれて
これまへなり

布久思毛與（ふくしもよ）

ふくしハ和名抄に加奈久之と訓りさをひまてさハ訓と菜をとる
ものをほりしにもちひなくしのつまりなるへし　くつまること
これもの志ましくへのおのつくくなり　そよハ此下におなし

美夫君思持（みふくしもち）

みハみなまへのみにおなし　ふくしのふをふこるハことれとなるよなり（別濁音のひとつ）

此岳尒（このをかに）

このをかに　この一句ハそこにある直をさしていへるにおなしくてみとさし
とさしたる也まてもとつこをハ　のハたゝけとさしむる也にて其人のこゝろを
とゝめてまもへつくれる也なり　をかのとハ山の手枝をとふにおなし
くてそのとハ山のさまのたかくなれるところをいふ　ハをへさしむる也まて
岳とかけるよりなりてくつはてハ林藪のさまのたかくなれるところを
さるかたなかるへし（別連音）　そてのふハ其人のこゝろ云をとゝめたし
て下とむかふる也

菜採須兒（なつますこ）

なハなつその名のふにとるへきもののといふ名なり　つむハつハそれなりつ
これにて岳とありくさしくその言なりなり　むハなみいふると

とまへられ云ふてつの云みちとをちめくらふ言　はこ六志つゝめつより

ふてその志ハ一つむ志つゝおとの志よ於まして　そとつことつハそへさる

むすゑりて志の云みところとはうりしとゑる言　こハとゝることとふ

こゝろ（きりすはことゝふ訓もはとはこの　さはさくの風調なるへし）

家（いへ）告（の）閑（へ）

いへのハをとつこゑしふて　ハ旅　ハ蛇るおとふハよおおしゑへし　ハそへまう、

むる云ふてそまへおさるる　云なすはく　のくみのハをとつこゝろふてこ在との

ころ終とゑむる云まうすはく　らへのらハろすくゑるゝ先の云ふてゝく

ちし先の言ふ久るて次へつくハ変とつきりして次の云へうるりてんとおせる

そのえ久り　ふいまうん　へハそへるそまう云ふておわはる言（こゝみちへのつゝきへ、とおはるハおのつゝく）

名（な）告（の）沙（さ）根（れ）

まハるをさしをきむる云　まるめてくちしひよさふ言　つきみのハ

のつへ乃　めくこし　らハろ　まうゝるとし先の云なり　則まのつとふ时ハ体よつく云る

（のはとふ时ハ用ふせく云まるを　ゝふ体用をきそ先はしてもしめられ云まらう　次のさねとふ言ふつきて一言をすれとのまう〇そとなそれらひこふこゝる）

（まといつ生もつて知れておれへしくますふ　さ袮のさハらへのふをさまるしむる言　詞ハくしきとのあるをとふ人の志つぬそいやき）

袮ハおしーとをつ言ふてゝくてきてハさしーさくめおわはる云まうさて

この蛇くことゝつゆまりて　せの一言とすはるハおのつゝすはるところあるへし

（こ意のひゝさのめちりことの志しへのつゆまりハここを　おのつゝすはるとのえ久りふへの志しハおのまふへくなるし）

虚（そら）見（み）津（つ）

そらハそらふおよひさはらむ出てられくこゝさゝらあくおするはる言

すなへし　則その一云ハとをそこふとふ　その云ふおとおしくておよはそれ

云まうまはり　らハとへさくむる云まてさしはる言まり　音連　こつる

こハ物にうつろふきしめの言　つハ上にかゝる云にて　もちゐられ云へて
やまとにかゝれる辞のよしこゝろ

山跡国者（やまとのくにハ）

やまとハやの一言ハやをさしよするふ云ふうつれるや　まハさしてられ
言よりすゝめるすゝへし　（別連音）　本ハ　ところ　ときをなとハいふと
の一云にあらし　くにのくハきを発さしむる一云よりなりてとられ乃
つまりよりすゝめるなるへし　小ハをへさらしむる云にてとられおれ言なり
（くつろきて竟界をさたむる）そてのそハ人のくをさし始む言

押奈倍手（おしなへて）

おれハおし云のくなり　おハ付すそちをおしつくれし　云ハしれけるを
まとることにておの一云のこゝろをさしてあつまりつむる言なり　あへてのおと
てふこれハそとつこゝろにて　ましくあれなといふなふかる　へハ発より
ひきうつろふ云にて　をなへおさふる云　そての　てハうへのくをさためうち
て下をむかふる云なり

吾許曽居（われこそをれ）

われてふこれハわれとよひし発よりてうつろひきて　われて
あるもしとけてにいふ　ことゝふ　こハ子をさしとさむる云にて
そつ云　とハうへの云のくをうけをさむるこれにて　そへうちむる
ことなり　をゐてふをハそとつこゝろにて　をさまるといふをのひて
ことにかゝれり　こハ何ハうえをのこしおきてふいうてこゑのをさ
まれること云よりすゝめるなり　次のゐハをへられまする云よりてうへのくを
うけおさふる言

師吉名倍手（しきなへて）

こゝにのりと志き並へてあるその志ハこの志れをとつことにてさため志つむる志の一言よりおこり　きハ之へをおさふることにてくへのこゝろをさしきそむる云へ　さて志きとよふ时ハさだまれる言（定言則体）志くとよふ时ハくるのゆるむ云（動言則用）志けとよふ志れハおこりたる云（欲言則令）志ことよふ志れハさる云にてとゞまりたる云（佐言則助）志れとよふ时ハさしあたりてえとまる云とあまる　ひとつのうつりひいつきもろともてわたるへし　まへてハことまいひつ

吾已曾座（われこそませ）

わがことをハうへにいひつ　まさぬまハ　そをとつことにてことわりぬつまる　ようなれるかなるへし　せハえられまろ言にて　そのひとことのをを志つめおさふる言

我許曾者背歯告目（われこそはせとはのらめ）

わがことをよふ言れをふいひつ　せハうへの四言をおさへてしたにをさむる云せらしれせの一言ハ　そのことをのへてさとふ言之（女ちよりハ兄と弟とを）夫をもさとせをえらかして　さらかさようせとハさとめすてこゝをのしふへし　さまふあつめとしのさハうへの意をはへのおる云しハうけをさむる云にてこゝろたつむる云　のりえれのハそとつ云らハうろよめとうちしめれ云　えんハうへの意をむすひおさめたる言

家乎毛名雄母（いへをもなをも）

いへのことうへにいひつ　をハうへのことを志らえてしとをまくる云　をハここにをとつ云　名ハほそよいひつ　そてのをハうへよおなしくてあれん　とうとしをさむるをえくてわがことをハ汝かなめにせとれうえよ

あまものゝよ家とも名をもとゝしてそのゝさまふかるへしせとし
のしるとおもはるゝことをかゝくにをむとねきておくへして家とも名
ともとおもほゆるかいといみしへうかれはつきこんまうるいまあふくさ
の大御うたもていへらむ

高市岡本宮御宇天皇代

天皇登香具山望国之時御製歌

山常庭(やまとにハ)村山有等(むらやまあれと)取與呂布(とりよろふ)天乃香具山(あめのかくやま)騰立(のほりたち)国見(くにみ)
乎為者(をすれハ)国原波(くにはらハ)煙立龍(けふりたちたつ)海原波(うなはらハ)加萬目立多都(かまめたちたつ)㤼怜(うまし)
国曽(くにそ)蜻島(あきつしま)八間跡能国者(やまとのくにハ)

山常庭(やまとにハ)村山有等(むらやまあれと)

やまとのことくにいひつかハるふにの言ハ夫のゝゝる代をさゝれとそれ

こゝろあり　そといふ言ハ夫の句をさしぬくことにて志もかをとらむ
これやまとにまての四言にうちつゝけあり　むら山のれハこの言ひとつ言まて
こまりうつろふ言らハそへまれまする言にて夫の句をさしゆかる言　やま
のことハれてふたへり　かゝるの句ハそとつ言　是ハそへまれまふる言にて
夫の句を結ひおさふることにて　そてのとハ夫の句をうけちをさむる句の
れもきはひゝきてふくめる言にてくてそてといふ辞のとめひとつと
にれなし

取與呂布(とりよろふ)

とりのとハこれ言れをそつことにて事をいそちをさまるいのえん　いとハ
そへまれまする言にて夫の句をはへまむる言　よろふのよハそとつ言にて
ずあよろとふよふさすへしろいそれ事をさしゆる言　ぬへたまへるなる

早稲田大学図書

言にて人の心を深くみだれくるしくつねてこゝろのそこのひらきを

いへる言をもあるなり

天乃香具山（あめのかぐやま）

あめのあめと云ハあふきあふくといふあにかよひ　天ハ人のさしあふる云にて　そ

らをさしたる云なりけり（則連音）　のといふ言ハ人の心緒をきわめて下を仰ぐる

言なく山てふ名ハあめよりふる山のおもかげを見てそのさかゆく山てふやまとなく

の二言ハ香立深く志りてうちかゝれる名にかへるをのにやあらむ　訓

さく山のふきさまよりいへるなるべし（於ある天のやす川なる弥端川の意にて大河の義　その穴か）

あめとふふにてくはくるしとふくみたまふにつきてふかくなるをの

騰立（のぼりたち）

つねにみのハ　みせのよるみとふのなるべし（詞のなうしかゝる二言に意の言なくとこそのこえなくともてそれつへし　ゝの）

（言ハもてはやし其ハさとハよきさまの云れたるこゝにかゝる云なり）をハ　そのつきしなつかしくうちをふる云の

よりにつきてふかく所るをのり（則意の言）くつきてひとつの言をみせり（音連）

まハさへきこまかる云にて人の心をよくさ見し云　うちみしハとと

つことにてまとさしさとつ云よりなりちハ、さへさ行よかる云にてと

の心をさへへしとつ言

国見乎為者（くにみをすれハ）

くにのことらへふいふ　ここハ見にうつろふも見のことなる（志しく体用にかゝる時）

（ここハ体めハ用）そハさへのことさめてかきすまれ云　ほとのほハ志よりほるみ

うつろひてすぐさるむる云にてそやつさ　是ハ兄へさ治まる云にて

その心をむすひなさるる云　それのそハその心をきゝ深くして中にとゝむるん

のおもきにかなてかなほりたる

国原波（くにはらは）

くにのひろく くはし そらのそハ うちひらけたるなかにて このかたちなし

らハ さしはらる云よりおりて たれくる云（則連音）そての たハ 人のみを始くみおく

あさてかふ そとむる云

煙立龍（けふりたちたつ）

けふりの くハ この云ひたちし かて かふりたちたるひろをいへる云 始ハむ より

うつろひきて とへむれふ言 よりまはり（則連音）見ハ 人の三云を体へたる

むかる云 らろのらハをとり云（則意の言）ちハ 人ときたまへる云ふて 人の心

をいふもちはちたる云 とつれたハ をとつ云 つハ 人のゆをとそちなれる云

かてとへ たきおふる云（たちハ体かつきて とつハ用をきさむ）

海原波（うなはらは）

うまきみハ うみといふの とをつことふて うかひ たまへなまといふかふ（主言）

なよふへし あハうみ云の心をさしおきむる云ふて このたふなど はくい

こゑのむへ みれおのつからはなれるにこうすかへし まハめくらし

にて ふハ ひつくつみて ためひろく家とをしらふ言

加萬目立多都（かまめたちたつ）

かまめハ 鳥の名（かまめといふもとのまうかもかう）その鳥ハ むまのつまよみおきて

とさかたつまうたるもちよりてもて云 たちたれハ ひつ

阿怜国曽（うましくにそ）

うましみくのひとことハ うれしく うつくしみふみよく まハうみ

なとさし うらなれ云（則連音）しハ うれしとさむる云ふて とくみん

たつむる云 くにハ近くなふへ そてのみとふ云ハ 人の心をとらしめをとさむ

云ふて心のおもひをふかく云てふかく作るとのこと

蜻島八閉跡能国者（あきつしまやまとのくには）

やまとの国ハを云つゝて　きハとへさるむることふて国つ云みゝころをさし

きそめし云　音連　つハしれる云ふてくへのなと云ひさしいそつ云　志まの

志ハをとつ云　まハをへさるむることふてくへのなとさし　いつ音連云　やまとのふ

ハ心てふかく　そてのそハくへの名をさしぬくむこと云てあり　あるハこあさのこよ

のいへそていふむ

大伴宿祢家持詠山振花歌

宇都世身者恋乎繁刀春向而念繁者引攀而（うつせみはこひをしげみとはるまけておもひしげくはひきよぢて）

折毛不折毛毎見情奈疑弁等繁山之（をりもをらずもみるごとにこころなぎむとしげやまの）

谿敝尓生流山振乎屋戸尓引植而朝露尓（たにへにおふるやまぶきをやどにひきうゑてあさつゆに）

仁保敝流花乎毎見念者不止恋志繁母（にほへるはなをみるごとにおもひはやまずこひしげしも）

宇都世身者（うつせみは）

うつせみのくハ　くるしとふ字ふかひてうつとふ　くふおもし　つハ係へ

係をれ云ふて　されけるとしるる云　せハしゐのつまるよるあてそのしハくつみ

二云つ云をさるとしるる云　志ハうつしみを云を係るあをとしるる云あつ　そての云を

ハ二云のそおくくる名をとさしふ云　くつまりて定めのよくよそらるつ

あれしれをとさしふ辞　そてのもふくへの名をとさし給ふむ言

恋乎繁刀（こひをしげみと）

こひのこハをとつ云ふてすをさしとさむる云よりあるよう　ひハをへらなする

云ふてよくの心をあくをおく言　とハくへの心を係るあてれとおもへる言　志

けみのしハをとつ云ふて志の志ろみとふ志ふおもし　けハをへそしむる云ふて

きも見にさるゝことハ人の心とにくてそすへおく云　そてのとかく乃

心をとゞちとゞむる意

春向而（はるむけて）

はるれもハときをつ　ことにて木のめれもはるとふをかおしさすしいて

るハ人の心とむすひすなる言（音連）まけてのまハそとつことにてまむけて

のまれ云なるか（略音）みらハ　くてうつろひてハむの云にはつみつみふ云

けハ人の心とゞちえかへるなる云にて　このふハくえのつまへまへあるなる

はへ下しそのてハ上の意とあもしかへて下とむするなる云

念繋者（おもひしけれハ）

おもひのおもいこゝのおもきこゝゑなりてこの云のおほしなるへし

をいふ人のおふつけてすどとちとゞむるまなふるか（音連）ひハそへ

とゞまる云にて人の二云れ意とふくみおく云（ひハ人の心とふくミおく云　ふハおさ合）

言へふひのうつろひ　去ぬるのされみゆることハ人よびつ　れハ人へうつるふる

ことをもておかへし

言にて人の心と結ひおさむる云　そてのそハ人の心とさし婦へき下に

そともむる云れおもきにほのみてかへなる云

引攀而（ひきよぢて）

ひきのひハ木言　きハふくうつろふ云にて人の心とさしきとむる云

よぢてのよハとうつことにてよくよみおもふあふなるちハ人へうてむる

云にて人の心とゞとちあまん云のおもきよするなりなる云　てハ

人の心とあもしおへて下とむするなる云

折も不折も（をるもをらずも）

をるのをハそてつことにて　をとまとふ　とゞまるく　てハ人へうてき

ますゑふて遊ひさきむすゑ　さハ人のことゝもとるところ
そしてのさハそれのとふかなし　らハろうろうくる初のゑふてとのゑめ
わとさし給へて下とより言　さハいかむゑのかれいろいろふてぬと
ふゑよりかみか侭るゑ　そてのそれ一ゑハ人のさふかなしくて
そつけてハ一句ふきうて人のをうかかそし（同ゑの性意ことゝておほへし）

毎見（みることに）

うゑの心ハ見ふ侭むさしめれゑ　ろハ人ゑ好うふ気ことふて上のを
と遊ひするゑ　この心ハそてつゑふそしとさむるゑの花をきふよ
をみをやハ人をさむるゑふてうちをさむゑ（連音）そての心ハ人のこゝろを
とさえかしてふとむるゑ

悵奈疑牟等（うらなきむと）

こゝろのことはてかいひつ　あまむのまハさとつことふて　あとまりの
あふかひて　せうさきゝこかし　そうのらとさしとうゝふこかふて
花をきふつきて　ふ分うゝの　むハ人のこゝろとも心ひとうもるゑく
つけてんのあまうけとふ辭　そての心ハ人のこゝろとなうしとうもるゑ

繁山之（しけやまの）

心との心ハをとつゑ　こハ人の心の一ゑれうろをとちへさてえしこと
やまのこゝろ侭てかひつ　そての花ハ人の心を切されかうてやへつくる

谿敝介生流（たにへにおふる）

たふハ山ふのつまうまつへし　雄ハおきおきふるか　ゑのさまうふつき
てかくうまならの　ふハ人をさまえかして思ひとむかるゑ　おふるのおハ

をとつこゑし　母ハをへさぬまゝことふてをんのこゝろとおさへむ

ろハむのひするゝ云なり

（やまふきを）
山振乎

やまふきハ草の名　人のふそ歎そといふそのハこみ今のなふをて云ふ　福寿草といふそのかたち花のくもみすれハ稲ひしつ　とふへと

をこ欠てさもとまつく云

（やとにひきうゑて）
屋戸尓引植而

やしのやハ人のすむところとをしふその　あハつまみ　みところ

おとふやらるへし　音連　ふハくのみと法まあれしてやをむふる云　ひきの

ひハをてつ云　さハをへうまするふ云ふてうへのみとうしさしもむる云　うゑのうハ

をとつ云ふてうひらなおとのつふうよふ　ゑハをへさうむる云ふて　さるあを

めし云　音連　そてのてハくゐちとならしそ　へて下をむふるよ云

（あさつゆに）
朝露尓

あさのあハあくるあしたのあかたおし　さハをへさうむなこゑし

ふて上のかさし云むる云あるなく　音連　つゆのつハなさしとこにこ云

うさくてつきつらふあとのつまてし　ゆハをへさうむる云そ　そるあさなふ

言連　そてのかたへのみと法まあれしてやをむふる云

（にほへる）
仁保敝流花乎

かハこえさうそれかく云かてをうらあれたこゑようなく　あハさしなり

ちうしとうひてうて小の云ふをひて法すなるやとさは云　音連　へハをへうれあふる

云ふてるうきをするこの　るハくのみとしくれてむすひなる云　そあの

えいるのひしゆるつしとさは云ようへて　あハをへさうむる云ふてさうあけく云

えをらなつ　音連　そてのとハくゐちとならあて下とまうくる云

毎見念者不止（みることにおもひハやまずて）

うかこゝろにハしよいひつ　おもひわすれてハいて　やまとのやハをとつゝ

まへそのゝへるをしめれゝ　ゝハ　ぬのおもきにのみて　こゝろといふむ

ゝのおもをきとの

恋志繁母（こひし　もしげし　も）

こひハれてふかく　志ハうれけどさわるゝふてさらん志つゝゝ　志けの

こととえまいて　しふひーの志よおほし　そでのゑハうえとにみえてひろひ

もつゝふてらふてハ志げゝふ詞をあげて一首のこゝろをさとて　ゆへて一首のもふふらゝ

（の志ここの志　をもて読へし）うくて鎌倉のうやれ大御うくまてさゝふハ志ゝ並祢し

そ知せ給はるかをちゝらるゝれるるを也極つくし　次の大御うけまいらせのころ

まてハうくをと給はる七そらさうれゝる秋を極ぬへし　かくた家能乃

ゆきふまふく辭の志うへあらむれつひけハおのつからよと知るもふ

うつろふをのおもし。さ也ハ辭ハ心のうつろしてそのよそのころ

のまふくおのつからまゐる所まうら。うへを後のよれ人へうまをま

志ひていつられこゝろのうおもひまおもしてぞハそれのうおもひさハうまのうおひ

まとおもちふゝるこそとゝるうま。おのよそいつゝのこゝろのうえし

あさことハたんなうしていつまれこゝろふかひくさうよそさらむ。たとれ

うちハうれるふまつけてられるゝかれるところおもてこゝろうれるひぬを

ハんうつろひけくそつ秋ある。そくこゝろハ心のおもひしてそのひうこゝろふ

ひうれおるらをおもし　給まえてそまつれ　こゝろのんハくそしきふ

いろうまむここのいゝへいあるのおもふハうまの辭をうて　そハそれの

かよひこハうまのうまひまと　そのこゝろひとを　おもしおもらふそのうろ

ひかそのこと葉にこの心をあらはさむとすることハいとくすしき也

くていとくしからぬてるとハその言をも道の辞を能くしてとふそこのと

さへふめるにて辞てふものハ志きもいふなるかくしてあるものやハ何しむ。

あふそのつくえしおひてことをかなえしも時しもせむやハかくのふかそ

かりろふもふるきのつかしすかる前にてゝつるへハかりろひてまく

そのことをみてよそのかハをあらぬかるむかのへハかよふよつきてかハかくれ

ゆくをとまりしにはいかなるかるとしてそのこゝろみんをおしてそかう

やゝみことのちしもおひゆきしえんあむか。あハ何をとも地のくちしも

かりろふとさきるさきこそそのみへをひとつめしふとくおし

ゆきしめむとハとてくあむゆるへし。そふいさきそのかにさるき

まかくもそちみことそのえにおしてつくふるきさしむやと

あふくえをひろひて志をしそのもしつくをひくきあくそのあるか。

ことのふかみこそ我も行きしめむとする人まきに心ふかく言葉も

そのひと言の行しむゑへしこゝろの心をおしかくえて行やしきハ

さしふかくへしともしてあむ

次のまふくくしくせむそのしまつにふそのひと言みゝうろを

つくえおかむ

あ 始音	い 定音 則体	う 動音 則用	え 欲音 則令	を 治音
か 真ヲ指ス言	き 指極ム言	く 極メ指言	け 極メ押ル言	こ 指治ム言
さ 指シ定ム	志 定メ鎮ム	す 鎮メ定ム	せ 鎮メ押	そ 定メ治ム
た 指タモツ	ち タモチ合ス	つ 合シタモツ	て 合シ押	と タモチ治
な 指納ム	に 納メ推ス	ぬ 推シ納	ね 推押	の 納メ治

は 指含　ひ 含置　ふ 置含　へ 置押　ほ 含治

ま 指満タ　み 満ニ備フ　む 備ヘミタス　め 備押　も 備ニ治

や 指推ス　い 推シ定ム　ゆ 定メ推　え 定押　よ 推治

ら 指總ル　り スヘ畨ヨム　る トメ總ル　れ 畨メ押　ろ 總治

わ 始言ノ重　ゐ 定言ノ重　う 動言ノ重　ゑ 欲言ノ重　於 治言ノ重

始より定を生し動を生す　定より欲を生す　動より治を生す。始定動欲治をついでとし　それよりさまざまにかはりをさまりてよの中のことゝつきぬ

くはしくハ別に書辞解をしるしてをさなき童蒙のため

まうくるあれバ次のまなびハいはむ